

No.	発言のポイント	要旨
1	行政の施策に経営学の視点を	行政の施策にも経営学が重視する顧客の観点を持ち、市民の意見を入れることが必要だ。
2	各分野で広域連携の推進を	岡山市は各分野でどんどん広域連携を進めていくべきだ。周辺の市町村も大いに期待をしている。
3	未来ビジョンの共有を	連携中枢都市圏域というのがすでにある。各市町村の状況が異なる中で、首長に十分に議論をしていただき、未来ビジョンを共有していただきたい。
4	古い公共施設の早急な処理を	古い公共施設をどうするかが問題だ。耐震化率は4割くらいとなっている。早目に議論をして、早目にコンセンサスを得て、早目に処理をしていただきたい。負の遺産を後世にできるだけ残さないようにすべきだ。
5	利用調整とモビリティが必要	広域連携の点では、行政と大学、経済界、NPO法人などが、それぞれの持ち味をどう生かし合うかが課題だ。みんな一緒ではなく、生かし合うための利用調整のような仕組みが求められる。その間を移動しやすくするためのモビリティの構築も必要だ。
6	公開に基づく評価と対策を	行財政運営は状況を公開して、市民とともに評価と対策の検討を行うことが重要だ。施策の効果を検証し、有効性を評価し、次の施策を考えるという仕組みが必要になる。
7	岡山市一極集中を避ける	近隣の市町村との人の争奪や多重投資などは避けたほうがよい。岡山市の一極集中は避けてほしいし、それは岡山市のためにもならないだろう。市役所内の部局間の連携をきちんとしていただきたい。
8	行政と地域の役割分担を	地域でできることは地域でやっていくと強化した上で、地域でできないところを岡山市が行うという意識改革が必要。地域経営体という点では、行政と大学や経済界、NPO法人が一体になって地域を運営する。その際、その地域がどうあるべきかを議論し、それぞれが持ち味に応じて責任を果たしていく。そうしたプロセスを取りながら運営していくことが必要だ。
9	町内会との連携を	町内会なくして地方自治はできないと思っているが、行政が先に決めたことを押し付けてくるのが大きな疑問だ。その点を抗議すると丸投げにしてくるから困る。そのあたりについて今後話ができればいいと思っている。
10	大きな夢を語るのがスタート	企業の経営計画は良いところを伸ばし、悪いところは止めるのが基本だ。そのためには大きな夢を語る必要がある。大きな夢を語るのがスタートではないか。ただ、やはり計画の際は、実現可能性や持続可能性も考えなければならない。行政の施策計画に民間の経営計画の手法が適切かどうかはあるにしても、そういったことを頭に置いておきたい。